

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
分担研究報告書

科学的エビデンス等に基づき医療環境に応じた適切な輸血療法実施についての研究

「科学的根拠に基づいた小児輸血ガイドラインの改訂」

研究分担者 北澤 淳一 福島県立医科大学 博士研究員・医師

研究要旨

科学的根拠に基づく小児輸血ガイドラインは2017年に上梓したのち、第2版の改定を実施したものの、公表できていなかった。今回の研究では、その後の文献を検討して、科学的根拠の改定をしてさらに改定して公表することを目的としている。令和6年度はキーワードに基づく文献検索を実施し、第一次選択を実施し、第二次選択の準備を実施した。

A. 研究目的

科学的根拠に基づく小児輸血ガイドラインに新しい知見を盛り込むことを目的として、前回検討した以降の文献の収集、検討を行って、ガイドラインを改定することを目的とする。

B. 研究方法

キーワードを設定して、複数のデータベースから最近の文献を検索し、今まで設定しているCQに対して、設定するアウトカム指標と研究内容から推奨度を決定する。

(倫理面への配慮)

本研究については該当なし。

C. 研究結果

キーワードをもとに文献検索を実施し、得られた論文の一次選択を実施した。選択された論文を収集し、二次選択の準備を実施し、3月下旬には研究協力者に向けて二次選択の案内を実施した。

D. 考察

前回の改定作成以降に大規模研究が論文として発表されているため、今回の改定にその知見を含めることには意義がある。早急に進める必要がある。日本輸血・細胞治療学会では、小児輸血のセッションとして、①小児救急・集中治療・周術期分野の輸血療法、②小児科領域におけるサイトメガロウイルス抗体陰性血液製剤の必要性、を取り上げ、専門医師よりご講演をいただいた。現在の小児輸血ガイドラインは新生児への輸血が中心であるが、その他の分野においても、成人の各種製剤使用ガイドラインに加えての小児の記述が必要になると考え

た。さらに、サイトメガロウイルス抗体陰性血液の必要性については、否定的な見解が有意であった。そのため、今回の文献検索により、ガイドラインの変更を検討する。

E. 結論

最近の大規模研究の知見を含めた改訂が必要である。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)
なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 荒川 貴弘 小児救急・集中治療・周術期分野の輸血療法 パネルディスカッション 小児ガイドラインのピットフォール、第72回日本輸血・細胞治療学会学術集会
2. 小林 正夫 小児科領域におけるサイトメガロウイルス抗体陰性血液製剤の必要性、第72回日本輸血・細胞治療学会学術集会

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし